



## C型慢性肝炎とお薬について

みなさんは、C型慢性肝炎という病気を聞いたことがありますか？C型慢性肝炎は「21世紀の国民病」とも言われており、患者さんも決して少なくない病気です。今回は、そんなC型慢性肝炎についてお話ししたいと思います。

### ○ C型慢性肝炎とは？

C型慢性肝炎とは、C型肝炎ウイルス（HCV）の感染により起こる肝臓の病気であり、6ヵ月以上にわたって肝臓の炎症が続き、細胞が壊れて肝臓の働きが悪くなる病気です。初期にはほとんど症状はありませんが、自覚症状がないまま病気が進むことがあるため放置しておくとう硬変や肝がん<sup>がんこうへん</sup>に進行してしまふことがあります。現在のわが国においては、100人に1～2人の割合で、C型慢性肝炎の患者さん、あるいは本人も気づいていないC型肝炎ウイルスの持続感染者<sup>じきくかんせんしや</sup>（キャリア）がいると推測されています。

HCVは持っている遺伝子の違いにより主に1a、1b、2a、2bなどのタイプに分類されています。日本人に多いのは1b型で約70%、2a型、2b型がそれぞれ20%、10%程度で、1a型はほとんどみられません。

### ○ C型慢性肝炎の原因は？

HCVは空気感染や経口感染はせず、感染者の血液を介して感染します。そのため、感染している人の血液が他人の血液の中に入ることによって感染することがありますが、血液に直接接触することが無ければ、家庭や集団生活での感染のおそれはほとんどありません。現在HCVに感染している方は、HCVが発見される前の輸血<sup>ゆけつ</sup>や血液製剤<sup>けつえきせいざい</sup>、あるいは、使い回しの注射などが原因と考えられます。そのため、現在では日常的生活の場でHCVに新たに感染することはほとんどないと考えられています。しかし、ピアスや入れ墨、覚せい剤などの回し打ち、あるいは不衛生な状態での鍼治療<sup>はりちりやう</sup>においては注意が必要です。なお、性交渉による感染や母から子への感染（母子感染）はごくまれとされています。



## ○ C型慢性肝炎に使用するお薬は？（院内採用薬）

C型慢性肝炎の治療法には、HCVを体の中から排除して感染からの治癒を目指す抗ウイルス療法と、肝機能を改善して肝炎の悪化を防ぐ対症療法があります。抗ウイルス療法においては、インターフェロンを用いた治療が主流でしたが、現在はほとんどの方がインターフェロンフリーの飲み薬での治療を受けています。

### 《抗ウイルス療法》

①抗ウイルス薬（インターフェロンフリー療法）：ハーボニー配合錠、マヴィレット配合錠、エプクルーサ配合錠、エレルサ錠、グラジナ錠、コペガス錠、レベトールカプセル⇒ウイルスに直接作用して増殖を抑え、HCVの排除を目指します。飲み薬のみの治療で3～6ヵ月間、毎日お薬を飲み続けます。

②インターフェロン治療：スミフェロン注、フエロン注、ペガシス皮下注⇒インターフェロンとは、本来私たちの体の中で作られる蛋白質であり、ウイルスを攻撃したり増殖を抑制する働きがあります。そのため、それを薬として体内に取り入れて体の防御機構を活性化させることでHCVの排除を目指します。

### 《肝庇護薬》

：ウルソ錠、小柴胡湯、強力ネオミノファージェンシー注

⇒抗ウイルス療法が行えない場合やHCVを排除できない場合に、肝機能を正常に保ち、肝炎の進行を防止する目的として行われます。しかし、体からウイルスを排除する効果はありません。

※C型慢性肝炎の治療法は、患者さん一人ひとりのウイルスのタイプや量・年齢・肝臓の状態などによって異なるため、詳しい治療方法については主治医と相談してください。なお、C型慢性肝炎に対するインターフェロンフリー治療やインターフェロン治療を受ける方に対して、医療費の公的な助成制度が設けられています。



このようにC型慢性肝炎の治療は年々発展していますが、体内からウイルスがいなくなっても、今後も肝臓病そのものの経過観察を続けていくことが重要です。そのため、治療後も定期的に超音波検査やCT・MRI検査などの画像検査を受ける必要があります。

～お薬のことでご不明な点やご不安な点がある場合には、医師又は薬剤師までご相談ください。～